

牢獄を意味する『厄場(やば)』から、危険な状況や不都合が生じたときに『やばい』という言葉が使われ出したのは江戸時代とも言われます。以来ずっと悪い意味で使われてきた『やばい』ですが、いつ頃からか『美味しい!』や『すごく良い!』など高評価するとき、正反対の意味でも使われるようになりました。良いのか悪いのか状況によって変わる『やばい』、便利でいきいきした表現が日常のあらゆる場面で多用されるまでに広まりました。

さて今回の『ヤバイ本』特集は、図書館の蔵書の中から『ヤバイ本』と思われる出版物を1冊選び、今日的で多義的な『やばい』について考察しようと、エディトリアルデザインを学ぶ文化学園大学のメディア映像クリエイションコースの3年生によって企画編集制作されました。「真面目ひとすじ」なイメージの図書館の、ひと味ちがう楽しみ方がみなさんのアイデアのヒントになれば幸いです。

## 特集

# ヤ バ い 本

## とにかく顔過ぎるカオス本

### 表紙からは伝わってこない奥深い面白さ

こんなにも一番近くにあるのに、自分で確認出来ないのは顔くらいかもしれません。そんな人間の顔について、とことん追求した本。ここまでくると、著者を自分たちとはかけ離れた顔オタクのようにも感じられますが、読み進めていくとつい共感してしまうから不思議です。数値化して分類をしたり、就いている仕事や置かれている環境によっても影響が出て来ることを、この本は教えてくれます。表情もいくつかの型に分けられていて、自分の普段の表情はどれなのか考えてみるのも面白いかもしれません。なんと体型と顔も関係しているようです。全体では30,000越えの例を対象に体型、顔、属する集団でどんな差が出ているのか比較しています。顔は周りの影響を受けやすいようで、同じ環境では似ている人が集まりがちなのかもしれません。後半は「顔の見取り図」という章になっており、職業ごとに分類され、見開きで50もの顔を一度に見比べることが出来ます。とにかく顔、顔、顔。必ず知り合いの顔が見つかるぐらい微妙な差を描き分けており、つい身近な誰かを探してしまいます。自分の顔もあるかもしれないので、ぜひ借りて探してみてください。  
文・写真 白澤遥香(3年)



▲顔の見取り図(外国政治家)

▲表紙

著者: 山崎清/発行所: 太陽書林/発売元: みずうみ書房/1979年



## サイズ・重量・価格の大迫力

掲載してある鳥はなんと！全て実物大！

突然ですが、図書館内に足を踏み入れて、周りを見渡すと額縁に入れて展示してある鳥の絵があるのはご存知でしょうか？実はあれ、「本」なんです。あの絵の正体は貴重図書。あまりにも高価で希少価値が高いため、普段は表に出しておらず稀観本室に保管されている本なのです。閲覧をお願いし、館員3名で運んできてくれたその大きさは4人がけのテーブル面を覆ってしまうほど。身長162cmの人間と比べるとこの通り。さらに全4巻。サイズ、重量もさることながらその価格なんと350万円!!。なんとも可愛くありません。1ページずつ収納されており、本というよりはもはや「画集」!。1800年代に実在していたアメリカじゅうの鳥を原寸大で纏めたもの。嘘みたいに大きい鳥もいれば、白いページの真ん中にぼつりと描かれた小さい鳥もいます。流石にこのサイズは貸出していませんが、小さく収めた簡易版なら貸出もしています。また事前に申請すれば学生のみでも閲覧が可能です。しかし今まで申請した人は1人もいないとか。是非ともあなたが文化学園の図書館の歴史初の申請者になってみてはいかがでしょうか。

文・写真 小田ゆう佳 (3年)



↑身長162cmの人間が持つこの迫力!

Yushodo Deluxe Facsimile Edition  
"The Birds of America" (アメリカの鳥)  
著者：ジョン・ジェームズ・オーデュボン  
雄松堂書店/2014年  
[下]  
John James Audubon : Birds of America  
Text : Helgard Reichholf-Riehm  
Taschen/1994年

## やりすぎよ!? 紙のこだわり

紙への愛が生み出した独特の表紙デザイン

『デザインのひきだし』とは、グラフィック社が発刊する、紙をテーマに特集している雑誌です。紙に関わるものならなんでも、箱や印刷の加工方法、フォントのデザインなど、その巻ごとに特集を組んで、紙に関するあれこれを紹介しています。現在までに38巻が発刊されていますが、特に注目したのは33巻です。この33巻の表紙は、「パルプモールド」と呼ばれる、紙製の卵パックに似た材質で作られています。文字は浮き彫りになっており、触り心地が面白いです。表紙を開いた内側もデコボコしています。ボックス型で今にも崩れそうな材質なので、手に取るのをためらってしまいます。実際、図書館に置いてあったものは、本文と表紙が分かれてしまっていました。しかし、箱を開ければ紙についての面白い記事が満載です。毎号、本の中には質感の違う紙やカード、特殊な印刷加工がされた見本帳などがこれでもかというほど入っています。付録のおかげで更に開きにくい仕様になっていますが、紙に興味のない人も、付録を触るだけでも体験してみたいのではないでしょうか。

文・写真 関沼紀佳 (3年)



光の向きで  
文字の影が変わる  
これもまたデザイン

デザインのひきだし33  
発行/グラフィック社  
2018年

# 細かすぎるヒゲ史がヤバイ

## ヒゲの文化とファッション

「ヒゲ」と聞いて皆さんはどんな印象を持つでしょうか？  
ワイルドやダンディなどおしゃれなイメージを持つ人もいれば、不潔やだらしなさなど悪い印象を持つ人もいるかもしれませんが、ヘアスタイルやファッションに比べ、あまり注目される存在ではないでしょう。

しかしヒゲは、ある時はテロ組織のシンボルであり、またある時は文明開化の象徴でもあったのです。この本は、主に日本国内における古代から現代までの「ヒゲ」の持つ意味や、周りからの印象の変化などを、政治、軍事、文化、ファッションなど多くの観点や従来の研究から細かく考察し尽くした本です。

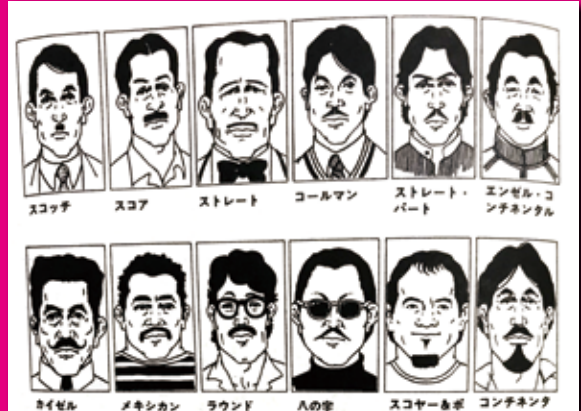
例えば、戦国時代には日本のヒゲの流行のピークがあり、逆に江戸時代には徳川幕府から「大ヒゲ禁令」なるものが発令されていたと伝えられています。

現在ヒゲを生やしている、生やしてみたい、またヒゲを生やしている男性が好きだ、などの方はぜひ手にとってみて下さい。この本を参考にして、新たなヒゲを生やし、自身のファッションに活かしてみたいはかがでしょうか？

文・写真 中台健太郎 (3年)



ユーモラスなイラストも盛りだくさん。



### 講談社現代新書

「教養は万人が身をもって養い創造すべきものであって、一部の専門家の占有物として、ただ一方的に人々の手もとに配布され伝達されるものではありません」として1964年から講談社より発行される教養新書のシリーズである。



ヒゲの日本近現代史 (講談社現代新書2217) / 阿部恒弘 / 講談社 / 2019年  
『ヒゲの日本近現代史』p213「ヒゲの大図鑑」掲載のヒゲ一覧 出典：『女性セブン』(1977.9.8)

# "THE HELL"

## 「地獄をみんなで観て散歩しに行こう！」

人間誰も地獄には絶対行きたくない。逆に行きたいなんて人が存在するとしたらそいつは相当ヤバイ。誰も見たことや行ったことがないのに「地獄」って名前をつけたり想像したりして負のイメージをどうして抱けるのか？ 言い出しっぱは一体誰なのだろうか？ その遠く昔の言い出しっぱとやらが描いた地獄絵図や地獄を表現した彫刻などを取り上げた本が実は図書館にはたくさんあるのだ。

有名な地獄絵図を描く浮世絵師の作品集や、血みどろ絵などで有名な月岡芳年の作品をまとめた本まである。見ていて「不快」という言葉だけで片付けるのではなく、表現技法も特殊なので、普段絵を描くのが好きなそのあなたはこの地獄絵図から目を背けてはならないのだ。

なにやら地獄の歩き方までも教えてくれる本もある。まさかあの地獄を見に行けるなんて、人間誰も気になって仕方ないと思うし、死ぬ前に見ておきたい光景だと思ふ。それは実在する都市にあるらしい。

そんな地獄を体験できる空間は「図書館」という本のたくさんある静かな場所。非常にシュールで恐ろしい…。

文・写真：橋川 裕 (3年)



### 『HELL 地獄 - 地獄をみる - 』

アートディレクション・企画：高岡一弥  
発行元：パイ インターナショナル / 2017年

地獄という場所は一体どんな場所なのか一目瞭然とわかる本。人間がまな板の上でバラバラにされている絵や、大鍋に入れられて焼かれたり潰されたりしている絵など、血も凍るようなゾクゾクする絵が、見やすい拡大図でたくさん載っている。高岡一弥によるアートディレクションによりとても見やすくなっている。

### 『HELL 地獄の歩き方 (タイランド編)』

(洋泉社)

いわゆる地獄を散歩する上でのマップだ。地獄を描いた彫刻作品がのっぺりとしたディテールでリアリティのないグロテスクな表現で、良い意味で気持ち悪い。著者は有名な写真家、都築響一。このマップを持たずして足を踏み入れたら最後、地獄から帰れなくなるかも。



## 80年代にタイムスリップ!

### 少女の心を掴んだレトロな広告大集結!!

この本は1980年代の少女向け雑誌に載っていた広告を収録しています。その数なんと223点! 著者は、80年代を5歳から15歳の少女時代にかけて過ごしてきた ゆかしなもんさん。昔から雑誌が大好きで、少女漫画雑誌、ティーン向けのライフスタイル誌、ファッション雑誌、アイドル情報誌などなど…彼女の昭和ガーリーライフは常に雑誌と共にあったそうです。特に雑誌に差し込まれていた広告には思い入れが強く、この本は ゆかしなもんさんが特にお気に入りだったレトロ広告を集めた1冊になっています。お菓子のパッケージや文具、ファッションやおもちゃなど幅広いジャンルの広告が集められ、世代が違う私たちもなぜか懐かしさを感じてしまいます。ノスタルジックな昭和ガーリー感あふれるキャッチコピーやデザインはとても可愛く、眺めるとデザインの歴史の一部を垣間見ることができます。やはり広告はアートなのだ気づかされる一冊です。私は少女の心を瞬時に掴む昭和の素敵な広告に心奪われてしまいました。皆さんもお茶目で華麗なアートワーク溢れる80年代と一緒にタイムスリップしてみませんか!

文・写真 辺見理沙 (3年)



'80s GIRLY MAGAZINE AD COLLECTION  
著者: ゆかしなもん/グラフィック社/2018年

## まるで浮いている?

### 不思議で綺麗な奇跡の写真集

『鏡面絶景』という地上の景色が水や氷に反射して鏡のように映った写真ばかりが載っている写真集があります。例えば、日本でいうと富士五湖に映る逆さ富士のような景色のことです。この本では青空、夜空、山、田園といったシチュエーションで穏やかに映し出された鏡面写真をまとめています。まず表紙の、空が大地に反射している鏡面写真は地面との境界線を見失ってしまいます。この空間にいる人がまるで浮いているような錯覚を起こしてしまいます。このだまし絵のような、万華鏡のような世界が一冊の本の中に広がります。

また、世界の秘境だけではなく日常で見逃してしまいそうな街中の写真もあったり、動物たちの不思議な鏡面写真も載っています。この鏡面写真は風が無く水面が揺れていないことが撮影の第一の条件なので、シャッターチャンスを待つのにとても根気が必要です。その努力が成した絶景写真の数々を眺めて机上旅行をしてみたいかでしょうか。きっとページをめくるたびに、「不思議だけど、綺麗でヤバイ!」と目を奪われることでしょう。

文・写真 橋岡優子 (3年)



不思議な絶景を惜しみなく見られるように、本の判型は横に長いパノラマ状のB5変形版となっています。



「鏡面絶景 空と大地が合わさる奇跡の眺め」  
McN編集部編  
発行元: エムディエヌコーポレーション/2015年

# ぶっ込んだ本を夜露死苦

## 『日本の最低で最悪な部分を凝縮』

「ヤンキー」や「暴走族」という言葉を聞いて、嫌な悪のイメージを抱く人はこの世の中にたくさんいるだろう。ではなぜ「不良」という野郎どもが存在してしまうのか。それは不良文化に憧れてしまうアウトローな野郎どもがこの日本に少なからず存在するからだ。

そんな不良の中で流行った髪型、ファッション、漫画、唄、キャラクターまで余すことなく伝える本がある。「パンチパーマ」や「短ラン」、「クローズ」、「横浜銀蝿」、「なめ猫」など、誰しも一度は聞いたことがあるようなワードをヤンキー口調で徹底解説。貴方もこの本を読めば今日からヤンキー仲間入りだ。また暴走族野郎どもをフィーチャーした写真集もある。ドラマなどに出てくる「なりきりヤンキー」みたいな生ぬるい半端モンではなく、ホンモノの野郎どもの姿や表情がそこには載っている。「こんな危険でヤバイ写真集なんて誰が見るんだよ!」とお思いの貴方。なぜか暴走族がかっこよく見えてしまうのでぜひ手にとってみてほしい。そんなアウトローでパンク精神溢れる本が、静かで優雅な時間が流れる図書館にあるなんて、気が利いているじゃないか。

文・写真 橋川 裕(3年)



『REVIVAL 版  
写真集《暴走族》増補版  
止められるか俺たちを』

編者：戸井十月  
発行元：第三書館 / 2005年

## 『これがニッポンの不良30年史だ！ ヤンキー大集合』

編著：ヤンキー文化研究会  
発行元：イースト・プレス  
2009年



## これが日本のロックだ！

### 最高峰のミュージシャンと写真家のコラボ

『日本ロック写真史』は1970～90年代を代表する日本のロックミュージシャンを8人の写真家が撮影したものをまとめた写真集。YMOや忌野清志郎など錚々たるミュージシャンたちが掲載されている。ロック界のレジェンドだらけの豪華な写真集。1970～90年代の日本のロックが好きな人にはたまらない。そうでない人も「日本にはこんなバンドがいたんだ」という発見があるかもしれない。私が印象に残る一枚は、ハービー・山口氏撮影のTHE YELLOW MONKEY。バンドの全盛期である1996年に撮影されたもの。彼らの定番曲「SPARK」がリリースされた頃だと思われる。カラーではなく、モノクロなのがカッコイイ。私がイエローモンキーにハマったのも、この時期の映像作品だったので、非常に印象深い。たった1ページだが、歴史的ミュージシャンたちの中に彼らが並んでいるのがファンとして嬉しい。もしかしたらあなたの好きなミュージシャンも載っているかもしれない。約100組のミュージシャンの中から好きなバンド・ミュージシャンを探すのも『日本ロック写真史』の醍醐味である。

文・写真 福島 七波(3年)



日本ロック写真史 ANGLE OF ROCK  
君塚太編/びあ/2007年

## 装苑、自由奔放に、妖艶に。

### ビビットで美しく艶やかな21世紀超現代

文化学園の一角に居を構える文化出版局が繰り広げる、独自の個性やハイセンス溢れる雑誌『装苑』。雑誌の第一印象を決める表紙のデザインがいつも格好良い。一般的な雑誌では特集や紹介文等は大体真っ直ぐに見やすいようにレイアウトされているが、『装苑』は見やすさよりも、デザイン性重視。その表紙を飾るモデル達もミステリアスな雰囲気纏っていて美しいのだが、レイアウトされた文字やモデル達も全て含め、妖艶で現代的な「装苑らしさ」が前面に表現されている。なんだか、まるで一つの芸術作品に魅せられているような気持ちにさせてくれる。そんな雑誌は『装苑』だけであろう。『装苑』に掲載されている写真たちはどれも皆、人々の心を掴むものばかりで美しい。ただファッションを伝えるだけではなく、ビビットな色味や独自の個性溢れる構図を含め、1ページずつの芸術作品になっているのである。それはまさしく、「何にも捉われずに、自由奔放に、自分が思うがままに生きる。」と言われているような、サブタイトルにもある「21世紀超現代」を表している。

文・写真 田中 乃亜 (3年)



「装苑」

文化出版局が発行する  
ファッション&カルチャー雑誌。  
1936年4月創刊。隔月28日発売。

## 内容は理解出来ません！

### 読むフリで結構。読んでる自分カッコいい。

好きな人の体操服を盗み、着用して登校する男子が愛した本。ボードレールの『悪の華』は、押見修造の漫画『悪の華』の主人公、春日高男の愛読書です。この漫画を読むなら、読んだことがあるなら、この本を一度は手に取るべきです。ボードレールは19世紀フランスの詩人で、46歳でこの世を去りました。『悪の華』はボードレールが生前に唯一残した詩集であり、各国の詩人たちに多大な影響を与えました。生きて死ぬまでの憂鬱が官能的に表現されていますが、その内容は“ふつうにんげん”には「???」とハテナマークでしょう。ですが、この本のいかがわしく、うしろめたく、いやらしくも、格調高いヤバさが、あなたを孤高の存在であると思わせてくれます。日本語訳された訳書はいくつかの出版社から出ていますが、中でもこの岩波文庫の『悪の華』はひととき難解と言えます。難しい本を読んでいる自分、ブックカバーを付けずにすました顔で見せびらかしてはいかがでしょうか。きっとあなたも“向こう側”に行きたくなるはず。読むことはもちろんですが、これからは本そのものを自己表現の一部に取り入れてみる、のも良いかもしれません。

文・写真 福井 萌那(3年)



悪の華 (岩波文庫) / 著: ボオドレール / 訳: 鈴木信太郎  
岩波書店 / 1961年

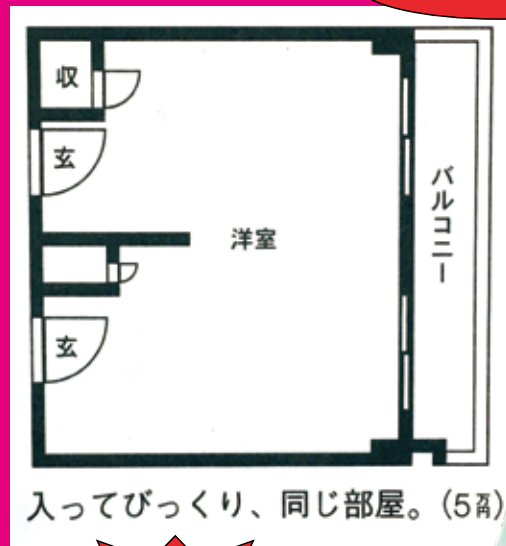
## こんなお部屋アリ!?

### 住んでみたいけど住みたくない

みんなどこかしらで生活をしています。セレブみたいな大きいお家や、こじんまりしたお家、どーんと陽が差し込むお家や暖房必須の築50年のお家、駅近のお家や屋上付きのお家。お引越しのシーズンには不動産屋さんに足を運ぶ人は多いのではないのでしょうか。お引越しをすとなつた時、家賃や立地も大事ですが、やはりこれから生活する場所となると「間取り」も大事な項目の一つ。物件の間取りを見るのが好きな人は意外と多いと思います。確かに住みやすい間取りが一番ですが、ちょっと癖のある間取りに興味がある人もいるのではないのでしょうか。素敵な間取りは今のご時世に山ほどあります。でもヘンテコな間取りや、住みにくそうだけど面白い間取りの紹介は物件サイトでもあまり見かけることはありません。ましてや不動産屋さんから紹介されることはほとんどないでしょう。なかなか出会えないヘンテコな物件を一冊にたくさん詰め込んだこの本、家賃とそれぞれの部屋に添えられた作者の一言にもぜひ注目してください!

文・写真 小野虹花(4年)

風呂トイレほしい...



入ってびっくり、同じ部屋。(5頁)

家庭内別居向け!?

間取りの手帖  
著者：佐藤和歌子  
版元：リトル・モア  
出版年：2003年



## 彼の生涯が報われなさすぎる

### アメリカン・ドリームが起こした純愛悲劇

「華麗なるギャツビー」という表題とは裏腹に主人公ギャツビーの人生は壮絶なものでした。結婚を約束した彼女デイジーと再会するために毎晩数百人規模のパーティーを開くギャツビー。しかしデイジーは豪華な生活に惹かれて別の男と結婚してしまっており、富に目が眩んだ彼女はギャツビーと不倫関係になります。そしてある日彼女は夫の愛人をギャツビーの車で轢いてしまい、疑いをかけられたギャツビーは罪を被って殺されてしまうのです。報われなくて悲しい人生ですね...と終わればそれはただの悲劇ですが、本当にヤバいのは実はここからです。毎晩数百人を招待し豪華なパーティーを開いていたにも関わらず、彼の葬式に参列したのは彼の父親と、親友であり語り手のニックのみ。主犯であり彼を愛していたはずのデイジーでさえ、参列することはありませんでした。皆、彼の富だけが目的だったのです。ギャツビーを献身的で一途な人間とみるか、それとも狂氣的で執念深いと表すか。そして最後まで報われなかった彼の人生を「華麗」と名付けた親友ニックの目に、彼はどんな風に映っていたのでしょうか。登場人物、これ全員ヤバいです。

文・写真 小田ゆう佳(3年)



華麗なるギャツビー  
THE GREAT GATSBY  
(新潮文庫)  
著：フィッツェラルド  
訳：野崎孝  
発行元：新潮社  
発行年：1974年



# バーコードで革命を起こす

## 隅っこで控えめだけど…発想がヤバイ

私たちが生活している中で必ずと言っていいほど目に入ってくる「バーコード」。そのバーコードに、「デザインバーコード」というものがあるをご存知ですか？バーコードって本来はデザインしてあるものではありません。けど面白くて可愛いデザインだったらちょっと嬉しいな。この本は、そんな思いを叶える業界騒然のデザインバーコードが収録されている本です。そもそもデザインバーコードとは、現役の広告クリエイター集団デザインバーコード社と株式会社サトーが発案したバーコードです。なので、本に載っている全てが実際に使われているものではありません。ですが実際に使われているデザインバーコードとして、サントリー「燃焼系 アミノ式」、「健康系 カテキン式」、カルビー「じゃがりこ」などがあります。身の回りを探してみるのも楽しいですよ！ 驚きと笑いを誘う新感覚バーコード。これまでになかった発想でデザイン界に革命を起こす！ そんな思いから生まれたヤバイ本『バーコード革命』。この本を読んだあとは、自分の周りの世界が全てバーコードに見え始めます！ 文・写真 永井優花 (3年)



行きまーす



よいしょよいしょ

▲サントリー「燃焼系アミノ式」



▼非常口

非常時は、このぐらい急いでください。

**実際の企業も  
思わず笑った！**

おもしろデザインバーコードが、全部で 155 点！

バーコード革命/デザインバーコード社/アーティストハウスパブリッ  
シャーズ/2005年

## 編集後記

今回の特集「ヤバイ本」、いかがだったでしょうか。

『図書館だより』は、これまで図書館スタッフが企画・編集を担当してきました。記事は図書館スタッフのほか、本学園教職員に執筆をお願いしてきました。それが今回このようになったのは、スタッフと先生の何気ない会話がきっかけでした。

図書館としては常々、学生に『図書館だより』を読んでもらい、図書館に少しでも興味を持ってほしいと願っています。「学生に執筆してもらったら面白いかもね」なんて会話もしていました。そんな話をしてみると、先生は先生で「うちの学生にやらせてもらえたらもっと面白くなるのに」なんてことを考えていたそう。

「でしたら次の号お願いできませんか」と軽い気持ちでお願いしてみたところ、お引き受けいただき、授業の一環として、学生の皆さんに企画・編集・制作すべてをお任せする運びとなりました。

私たち図書館スタッフも制作の過程を見学させていただきましたが、皆熱心に取り組んでくれました。今回は「エディトリアルデザイン」という授業の中で制作してもらったわけですが、Adobe InDesignの使い方を学びつつ、自分の選んだ本の紹介文を執筆し、キャッチーな見出しを考え、本の雰囲気に合わせてデザインを工夫してくれました。単に紹介文と表紙だけではない、それぞれが素晴らしい作品に仕上がりました。学生たちが制作した作品を1つにまとめて、今回の『図書館だより』は出来上がったのです。

学生が自由にデザインする一方で、本には様々な権利があります。修正が必要な作品や掲載できなかった作品もあります。様々な制約の中でいかにデザインするか、制作した学生の皆さんには、これもまた一つの経験として捉えてほしいと思います。そして、今回、ご協力いただいた各出版社の皆さまには、この場を借りて感謝申し上げます。

「ヤバイ本」というテーマは、私たちでは思い浮かばないテーマです。いったいどんな本が選ばれるのか、正直ドキドキしていましたが、幅広いジャンルの本が選ばれました。

あなたも「ヤバイ本」探してみませんか？

企画・編集・制作/文化学園大学 造形学部 デザイン・造形学科 メディア映像クリエイションコース

図書館だより No.170 文化学園図書館 2020年4月3日発行  
文化学園大学・文化ファッション大学院大学・文化服装学院・文化外国語専門学校  
東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL.03-3299-2395 FAX.03-3299-2604  
不明な点は下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

TEL.03-3299-2395 <https://lib.bunka.ac.jp>

twitterとfacebookにて図書館の情報を発信しています。

[twitter] @bunkalib [facebook] <https://www.facebook.com/lib/bunka>

本書に掲載されている図版の中で、一部連絡先が判明しないものがありました。

お気づきになった方は、お手数ですが図書館までご連絡ください。

**BG  
LN**  
Bunka Gakuen Library News